

第121号

ゆふいんだより

発行/平成27年1月

JCHO湯布院病院
「ゆふいんだより」事務局

郵便番号 879-5193
大分県由布市湯布院町川南252
TEL.0977(84)3171
FAX.0977(84)3969
<http://yufuin.jcho.go.jp/>
E-mail:main@yufuin.jcho.go.jp



変わるものと変わらないもの！

青春、朱夏、白秋、玄冬、人の一生にも例えられるこの言葉が湯布院にはよく似合います。この2年、私は折に触れ病院の屋上から湯布院の街並みと由布岳を眺めてきました。春は桜、菜の花、炎暑の夏、秋の紅葉、そして雪と氷の冬。由布岳もまた四季折々にその姿を変えます。

季節は巡り、歴史は巡り、人の世も巡り、そして病院もまた巡り、変わります。

湯布院病院は湯布院厚生年金病院に端を発します。昭和37年10月に50床で竣工、開院しました。以降湯布院厚生年金病院は幾星霜、時の院長を中心とした職員の懸命な努力により現在の湯布院病院があります。この間、病院はその時々、社会的情勢・要請に対応すべく様々に診療形態を変えてきました。

変わらないものがあります。「病める人に、寄り添い、思い遣り、そしてご自分の生活の場所に帰っていただけるように共に努力する。」という私たちの姿勢です。

『ゆふいんだより』創刊号には桑原 寛院長(当時)のご挨拶があります。この冊子を「---- 遠くはなれておられても、一人ぼっちではない、入院中と同じ関心をもって見守られているのだ、と確信されて、入院中に知り合われた方々を思い出されながら、お互いに励まし合う気持ちで、この新聞を利用していただけるならば----」とあります。

この想いもまた変わるものではありません。昭和60年1月の創刊以来の『ゆふいんだより』全号の表紙をこの号に再現しました。

昨年4月、湯布院厚生年金病院は地域医療機能推進機構(JCHO)湯布院病院として再出発しました。いつの世も新しい船出には変化がつきものです。『ゆふいんだより』は諸般の事情によりお休みさせていただきますが、新しい湯布院病院の広報誌を企画中です。その中で、この**変わらない想い**をつむぎ、つないでいきます。

これまでのご愛読を心より感謝申し上げます。そして皆様方のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げます。

院長 犀川 哲典

ゆふいんだより
back number
1985
▼
2015
30年の
歩み



1号(1985)



10号(1985)



20号(1989)



30号(1992)



40号(1994)



50号(1997)





60号(1999)



70号(2002)



80号(2004)



90号(2006)



100号(2009)



110号(2012)



120号(2014)



ゆふいんだより

休刊に寄せて

前号で少し予告をいたしました。この『ゆふいんだより』は今号121号をもっていったん休刊することになりました。4月以降新しい形で『ゆふいんだより』に続く病院広報誌として再出発する予定です。

昭和60年(1985年)に第1号を発刊して以来30年にわたりご愛読いただきありがとうございました。もともとは病院広報誌としてではなく湯布院厚生年金病院脳卒中友の会の発行する会誌として始まりました。多くの方々にお読みいただき、多くの励ましの言葉や時にはお叱りの言葉をいただき、それを糧にして今まで刊行することができました。今号に掲載しました120号にわたる表紙を眺めてみると30年という年月が長いような短いような複雑な心境を抱かせます。休刊することを決めたものの、いざこの表紙の集まりを見てみると本当に休刊という判断は正しかったのだろうか私に迫ってくるものがあります。

今までご愛読いただいた読者のみなさん、お便りをくださった読者の皆さん、忙しい中、原稿を寄せていただいた数多くの執筆者の方々に深く感謝を申し上げます。

時代が次々と変革を迫ってくる中で、わが病院も例外ではなく病院のかたちも変わることを余儀なくされています。その中であって、当院のモットーである“いつも笑顔でまごころこめて”を変わりなく実践するために病院のかたち変えていかざるを得ないというジレンマを抱えています。私はこの病院での仕事がちょうど20年になりましたがその間多くの病院の形の変化がありました。そのたびごとに、当院を頼りにしていた方々の期待に添えないことも出てきて随分とお叱りの言葉も頂戴しました。多くが診療報酬に関係した病院ではいかんともしがたい事情があったとはいえ、患者さんの期待を結果的に裏切ることになったことに忸怩たる思いを抱いています。

またこれからも、さらに時代は病院へ変革を迫ってくることでしょう。そうした中、どのような形で『ゆふいんだより』を受け継ぐ新しい広報誌を作っていくかが今後の私どもに課せられた使命です。病院の新しい広報誌はその発行主体が病院の地域医療部となり、編集長も新しくなります。これからの当院は国が方針を示しているように地域完結、地域密着をキーワードとした病院に変わっていくと考えています。その中心を担う地域医療部の発行する新しい広報誌の編集方針はまだ完全には決まっていますが、これまでの『ゆふいんだより』の経験を生かしてこれまでの編集委員も協力していく方針です。

引き続き当院の今後を見守っていただき、新しい広報誌が発刊されましたらまた、ご愛読いただきますようお願いいたします。これまでありがとうございました。

ゆふいんだより 編集長 後藤 洋一

